

市政アンケート調査結果について

Ⅲ 「在宅医療・介護のサービス提供および患者の意思を尊重した人生の最終段階における医療の実現」について

《アンケート内容》

本市では、高齢になっても住みなれた自宅や地域で、いきいきと暮らせるまちを目指し、在宅医療・介護の提供体制の整備を進めています。かかりつけ医が定期的に患者さんの自宅を訪問し診療を行い、必要に応じて、訪問介護等の介護サービス、看護師による訪問看護、理学療法士による訪問リハビリ、歯科医師による訪問歯科診療等を利用することで、自宅で自分らしい時間を過ごしながらか療養することも可能になってきています。また、最近では、「自分らしい最期の時」を迎えたいと考える人が増え、「平穏死」「終活」「エンディングノート」といった言葉を耳にする機会も増えてきました。人生の最期の場面のあり方については、本人の意思が大事になってきますが、本人自身が最期まで治療内容を決められることは稀であり、家族が代わりに判断することが一般的です。しかしながら、その時に本人の意向が必ずしも家族に伝わっていないことも多く、判断を迫られた家族が困惑されるケースも多いようです。

そこで、今後、在宅医療を推進するとともに、市民の皆様が『人生の最終段階における医療』に関する理解を深め、自らの人生の最終段階における医療について考えるきっかけづくりとなるような事業を進めるにあたり、市民の皆様の今の考え方をお尋ねしました。

《アンケート結果》

（在宅医療・介護サービスの提供について）

自らが脳卒中の後遺症や末期がんが原因で、身の回りの手助けが必要となった場合は、「自宅（在宅医療など）で過ごしたい」と回答された方が 43.9%と最も高く、次いで「介護施設」「病院」の順となっています。一方、認知症が進んだ場合には、「介護施設」を望む人が 64.2%と最も高く、次いで「病院」の順でした。「自宅で過ごしたい」方は 7.5%と低い結果となっており、認知症の場合、自宅で過ごすと家族に迷惑を掛けてしまうと考えている方が多いようです。また、末期がんの場合「自宅」「介護施設」「病院」以外を選択した人の半数以上は、「ホスピス」と回答されています。市民の皆様へ「ホスピス」という言葉が、広く浸透していることがうかがえます。

御家族が同様の症状になった場合に過ごして欲しい場所も、本人の場合と同様に、脳卒中の後遺症や末期がんの場合は「自宅」、認知症の場合は、「介護施設」が最も多い回答になっています。また、脳卒中の後遺症、末期がん、いずれの場合にも、御家族が同様の症状になった場合の方が、本人がなった場合よりも「自宅」の割合が高くなっています。また、「自宅で過ごして欲しい」と思う家族は、年齢が低いほど高く、年齢が高くなるほど低くなっています。高齢になると、介護力に不安が強くなることが理由と思われる。その他を選択した人は、「本人の意思を尊重して決めたい」と記載した人が多くなっています。

在宅医療・介護を利用する時のために、何をしておきたいかについては、「費用がどのくらいかかるか」が 81.9%と最も高くなっています。また、「自宅で受けることのできる介護」や「医療」の内容を知りたい人も多いことが分かります。

(人生の最期の場面【治る見込みがなく死期が迫った時】について)

人生の最期の場면을どこで過ごしたいかについては、「自宅」が42.5%と最も高く、次いで「ホスピス等の緩和ケア施設」34.2%となっています。また、性別でみると、「自宅」と回答した人は男性が51.6%であるのに対して女性では34.6%となっています。一方で、「ホスピス等の緩和ケア施設」を希望した人では、男性が23.7%、女性が41.1%となっており、性別で違いがあることが分かります。

人生の最期に受けたい医療については、「延命治療は受けたくない。自然に最期を迎えたい」との回答が53.8%と最も高く、半数を超えています。次いで、「その時にならないと分からない」、「基本的には延命治療を控えたいが、身体の負担が少ない治療であれば、延命のためであっても受けたい」という結果になっています。「医師に従いたい」や、「最大限の医療を受けたい」との回答は少数でした。このように、積極的に延命治療を望んでいる人は、多くないことが分かります。

人生の最期に受けたい医療について、考えているかについては、「考える必要はあると思うが何もしていない」と回答した人が53.5%と最も高くなっています。「書面に残してはいたいが、家族等と話したことがある」が27.5%、「考えたことはない」が13.6%となっています。「既に家族等とも話し、書面で意思表示をしている人」は3.0%となっています。

人生の最終段階に受けたい医療について、「考える必要はあると思うが何もしていない」や、「考えたことはない」人が、今後考えるために必要なものとして、「参考となるパンフレット等が必要」(53.1%)とっています。また、「かかりつけ医や行政職員等説明をしてくれる人が必要」と思っていることが分かりました。7.9%の人は、「考える必要はない」と回答しています。

《今後の方針》

今回のアンケートの結果から、自分や家族が認知症以外の病気になった時は、「自宅で過ごしたい」、「自宅で過ごして欲しい」と思っている人が多く、認知症が進んだ場合は、「介護施設」を希望することが多いことから、今後も一層の在宅医療・介護の連携推進が必要であることがうかがえます。

また、人生の最終段階の医療については、「考える必要があると思うが何もしていない」人や「考えたことがない」人が多いこと、また、その人達が今後考えるためには、参考となるパンフレットを作成するとともに、市民の皆様へ分かりやすい説明のできる人材を育成し、市民の皆様が考えるきっかけを増やしていくことが必要です。

今後は、今回の調査結果を踏まえ、新たな事業展開に向けた検討を深め、市民の皆様が住みなれた自宅や地域で、いきいきと暮らせるまちを実現できるよう取り組みを進めてまいります。

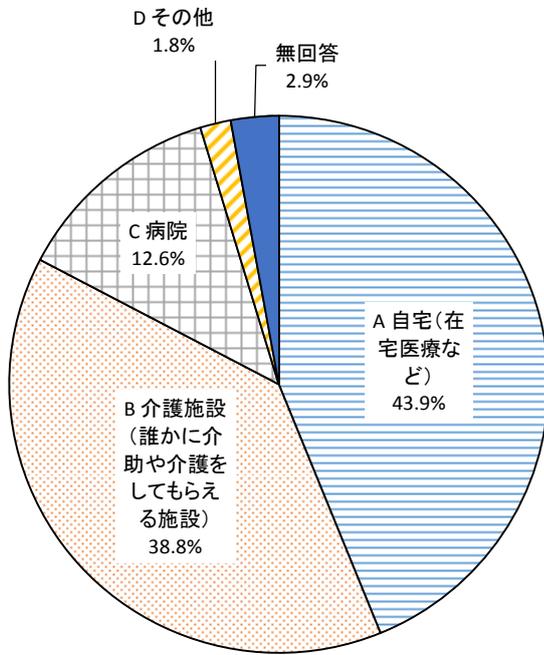
【医療政策課】

【在宅医療・介護サービスの提供について】お尋ねします。

問1 もし、あなたが次のような症状になった時、主にどこで過ごしたいですか。(それぞれ1つだけ)

ア) 脳卒中の後遺症で麻痺があり、身の回りの手助けが必要であるが、意識や判断力は健康な時と同様の場合

【全体合計の割合】



N=1847

【集計分析】

- A「自宅(在宅医療など)」が43.9%と最も高く、次いでB「介護施設(誰かに介助や介護をもらえる施設)」が38.8%であった。
- 一方、C「病院」と回答された方は12.6%であったが、年齢区別で見ると、65~79歳の16.5%がC「病院」と回答であった。また、年齢が若い方ほど、A「自宅(在宅医療など)」を希望されていることがうかがえる。

【その他 主な意見】

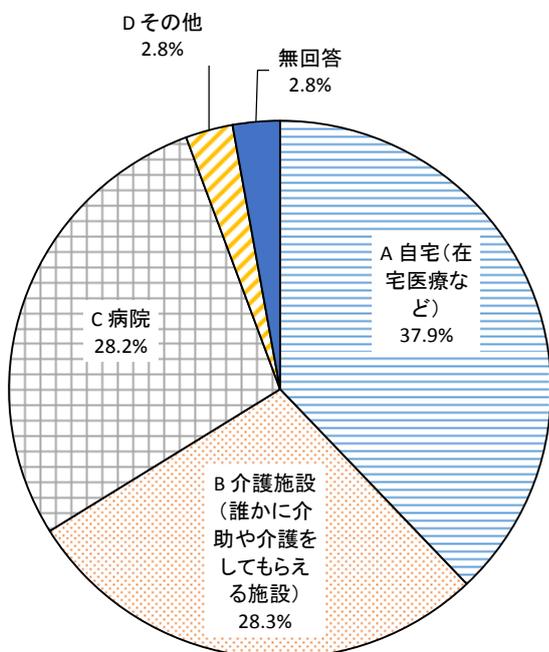
- ・ 家族に判断を任せる
- ・ 家族の支援や介護サービスを利用して、自宅で生活したい
- ・ 自宅と施設を併用したい
- ・ 家族の状況による。その時にならないと判断できない など

(上段：人 下段：%)

		合計	A	B	C	D	無回答
全体		1,847	810	717	233	34	53
		100.0%	43.9%	38.8%	12.6%	1.8%	2.9%
性別	男性	727	333	265	96	13	20
		100.0%	45.8%	36.5%	13.2%	1.8%	2.8%
性別	女性	1,107	475	443	136	21	32
		100.0%	42.9%	40.0%	12.3%	1.9%	2.9%
行政区別	中央区	448	202	171	57	6	12
		100.0%	45.1%	38.2%	12.7%	1.3%	2.7%
	東区	487	225	197	48	9	8
		100.0%	46.2%	40.5%	9.9%	1.8%	1.6%
	西区	239	96	78	46	5	14
		100.0%	40.2%	32.6%	19.2%	2.1%	5.9%
行政区別	南区	309	138	127	30	6	8
		100.0%	44.7%	41.1%	9.7%	1.9%	2.6%
行政区別	北区	354	147	138	51	8	10
		100.0%	41.5%	39.0%	14.4%	2.3%	2.8%
年齢区別	18~34歳	305	168	92	34	5	6
		100.0%	55.1%	30.2%	11.1%	1.6%	2.0%
	35~49歳	441	211	161	50	9	10
		100.0%	47.8%	36.5%	11.3%	2.0%	2.3%
	50~64歳	575	215	266	63	14	17
	100.0%	37.4%	46.3%	11.0%	2.4%	3.0%	
年齢区別	65~79歳	516	214	192	85	6	19
		100.0%	41.5%	37.2%	16.5%	1.2%	3.7%

イ) 末期がんで、食事や呼吸が不自由であり手助けが必要であるが、痛みはなく、意識や判断力は健康な時と同様の場合

【全体合計の割合】



N=1847

【集計分析】

- A「自宅(在宅医療など)」が 37.9%と最も高く、次いで B「介護施設(誰かに介助や介護をしてもらえる施設)」と C「病院」はともに約 28%であった。
- 年齢区分別では、18~34 歳の半数以上の方が A「自宅(在宅医療など)」と回答であった。また、年齢が高くなると、C「病院」を希望される方が多くなることがうかがえた。
- D「その他」と回答した半数以上は「ホスピス」との記載であった。

【その他 主な意見】

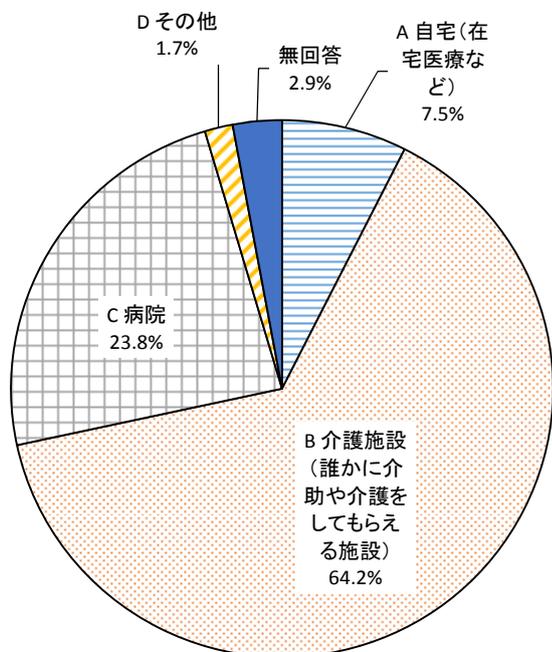
- ホスピスや緩和ケア病棟で過ごしたい
- その時にならないと分からない
- 助からないのであれば子どもと過ごしたい
- 元気なうちに終末期に望むことを事前に書いておくことが大切だと思う など

(上段：人 下段：%)

		合計	A	B	C	D	無回答
全体		1,847 100.0%	700 37.9%	522 28.3%	521 28.2%	52 2.8%	52 2.8%
性別	男性	727 100.0%	287 39.5%	210 28.9%	194 26.7%	15 2.1%	21 2.9%
	女性	1,107 100.0%	407 36.8%	310 28.0%	323 29.2%	37 3.3%	30 2.7%
行政区別	中央区	448 100.0%	171 38.2%	118 26.3%	132 29.5%	16 3.6%	11 2.5%
	東区	487 100.0%	181 37.2%	155 31.8%	133 27.3%	11 2.3%	7 1.4%
	西区	239 100.0%	82 34.3%	54 22.6%	78 32.6%	9 3.8%	16 6.7%
	南区	309 100.0%	118 38.2%	94 30.4%	80 25.9%	8 2.6%	9 2.9%
	北区	354 100.0%	144 40.7%	99 28.0%	95 26.8%	8 2.3%	8 2.3%
年齢区分別	18~34歳	305 100.0%	163 53.4%	59 19.3%	76 24.9%	3 1.0%	4 1.3%
	35~49歳	441 100.0%	191 43.3%	114 25.9%	114 25.9%	13 2.9%	9 2.0%
	50~64歳	575 100.0%	178 31.0%	191 33.2%	170 29.6%	21 3.7%	15 2.6%
	65~79歳	516 100.0%	164 31.8%	156 30.2%	158 30.6%	15 2.9%	23 4.5%

ウ) 認知症が進行し、身の回りの手助けが必要で、かなり衰弱が進んできた場合

【全体合計の割合】



【集計分析】

- B「介護施設（誰かに介助や介護をもらえる施設）」が64.2%と最も高く、次いでC「病院」が23.8%であった。
- A「自宅（在宅医療など）」との回答は7.5%だったが、性別でみると、男性は9.9%、女性は5.9%であった。

【その他 主な意見】

- ・ 家族に迷惑のかからない場所で過ごしたい
- ・ 家族に決断を任せる
- ・ できることなら、安楽死を選択したい など

N=1847

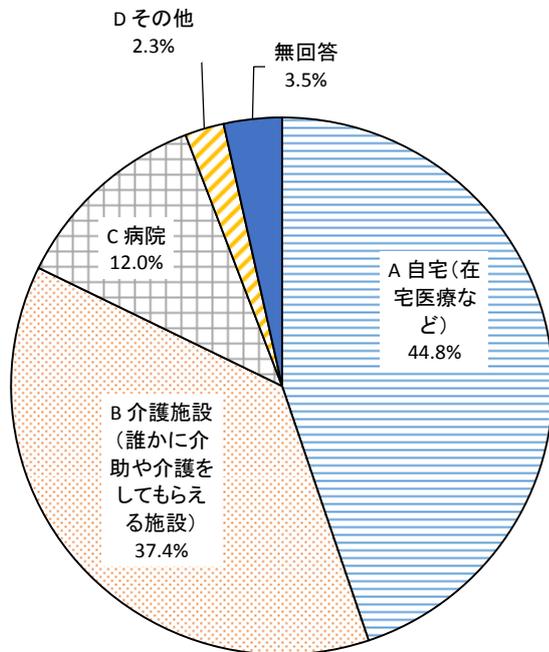
(上段：人 下段：%)

		合計	A	B	C	D	無回答
全体		1,847	138	1,185	439	31	54
		100.0%	7.5%	64.2%	23.8%	1.7%	2.9%
性別	男性	727	72	463	156	16	20
		100.0%	9.9%	63.7%	21.5%	2.2%	2.8%
性別	女性	1,107	65	715	281	15	31
		100.0%	5.9%	64.6%	25.4%	1.4%	2.8%
行政区別	中央区	448	36	284	106	8	14
		100.0%	8.0%	63.4%	23.7%	1.8%	3.1%
	東区	487	34	317	121	6	9
		100.0%	7.0%	65.1%	24.8%	1.2%	1.8%
	西区	239	13	151	56	5	14
		100.0%	5.4%	63.2%	23.4%	2.1%	5.9%
行政区別	南区	309	22	201	73	5	8
		100.0%	7.1%	65.0%	23.6%	1.6%	2.6%
行政区別	北区	354	32	227	82	7	6
		100.0%	9.0%	64.1%	23.2%	2.0%	1.7%
年齢区分別	18~34歳	305	23	192	81	4	5
		100.0%	7.5%	63.0%	26.6%	1.3%	1.6%
	35~49歳	441	27	289	105	11	9
		100.0%	6.1%	65.5%	23.8%	2.5%	2.0%
	50~64歳	575	34	384	136	6	15
	100.0%	5.9%	66.8%	23.7%	1.0%	2.6%	
年齢区分別	65~79歳	516	53	315	116	10	22
		100.0%	10.3%	61.0%	22.5%	1.9%	4.3%

問2 もし、あなたの家族が次のような症状になった時、主にどこで過ごしてほしいですか。（それぞれ1つだけ）

ア) 脳卒中の後遺症で麻痺があり、身の回りの手助けが必要であるが、意識や判断力は健康な時と同様の場合

【全体合計の割合】



N=1847

【集計分析】

- A「自宅（在宅医療など）」が 44.8%と最も高く、次いで B「介護施設（誰かに介助や介護をしてもらえる施設）」が 37.4%であった。
- 一方、C「病院」と回答した方は 12.0%だった。また、年齢が若い方ほど、A「自宅（在宅医療など）」を希望されていることがうかがえる。
- D「その他」の回答のうち、1/3 以上は「本人の意思を尊重する」との記載があった。

【その他 主な意見】

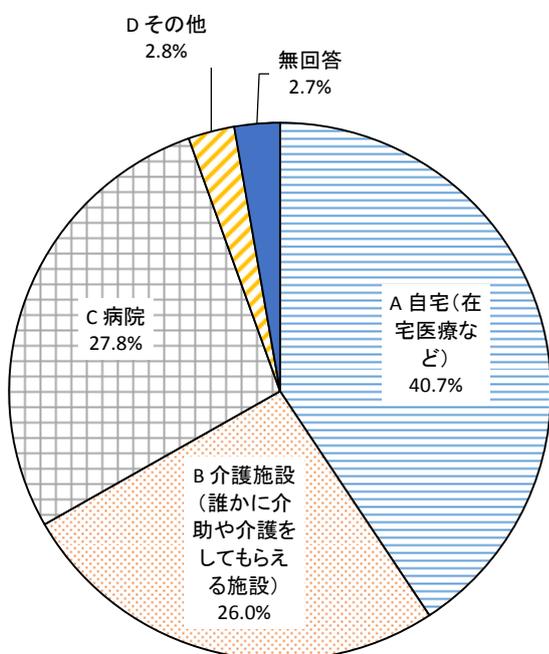
- 本人の意思を尊重して決めたい
- 自宅と施設を併用して介護したい
- その時の状況、症状による
- 親なら病院、子どもなら自宅 など

(上段：人 下段：%)

		合計	A	B	C	D	無回答
全体		1,847	828	691	221	43	64
		100.0%	44.8%	37.4%	12.0%	2.3%	3.5%
性別	男性	727	312	281	93	15	26
		100.0%	42.9%	38.7%	12.8%	2.1%	3.6%
性別	女性	1,107	512	405	125	28	37
		100.0%	46.3%	36.6%	11.3%	2.5%	3.3%
行政区別	中央区	448	205	164	54	10	15
		100.0%	45.8%	36.6%	12.1%	2.2%	3.3%
	東区	487	232	186	48	8	13
		100.0%	47.6%	38.2%	9.9%	1.6%	2.7%
	西区	239	107	73	36	8	15
		100.0%	44.8%	30.5%	15.1%	3.3%	6.3%
行政区別	南区	309	139	119	31	10	10
		100.0%	45.0%	38.5%	10.0%	3.2%	3.2%
行政区別	北区	354	142	146	49	7	10
		100.0%	40.1%	41.2%	13.8%	2.0%	2.8%
年齢区別	18~34歳	305	179	84	26	11	5
		100.0%	58.7%	27.5%	8.5%	3.6%	1.6%
	35~49歳	441	209	167	45	9	11
		100.0%	47.4%	37.9%	10.2%	2.0%	2.5%
	50~64歳	575	231	249	63	13	19
	100.0%	40.2%	43.3%	11.0%	2.3%	3.3%	
年齢区別	65~79歳	516	206	188	84	10	28
		100.0%	39.9%	36.4%	16.3%	1.9%	5.4%

イ) 末期がんで、食事や呼吸が不自由であり手助けが必要であるが、痛みはなく、意識や判断力は健康な時と同様の場合

【全体合計の割合】



N=1847

【集計分析】

○ A「自宅(在宅医療など)」との回答が40.7%と最も高く、次いでC「病院」27.8%、B「介護施設(誰かに介助や介護をしてもらえる施設)」26.0%であった。

また、年齢が若い方ほど、A「自宅(在宅医療など)」を希望されていることがうかがえる。

○ D「その他」の回答では、「本人の意思を尊重する」および「ホスピス」との記載が大半であった。

【その他 主な意見】

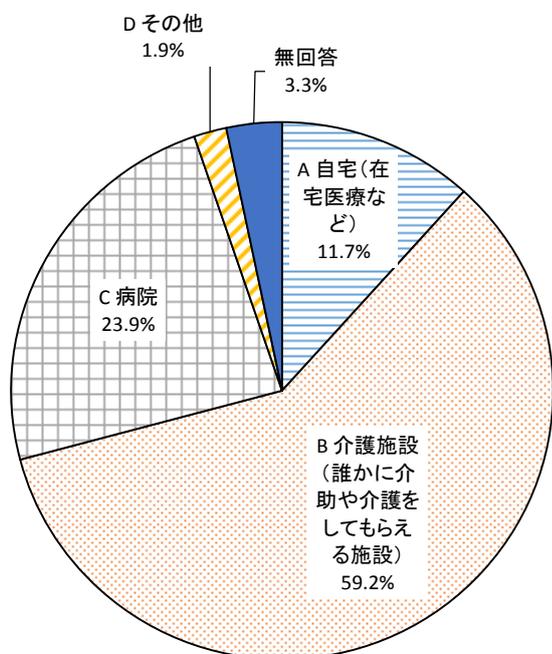
- ・ ホスピスやターミナルケアが受けられるところをお願いしたい
- ・ 本人の意思を尊重したい
- ・ その時の状況で判断したい
- ・ 自宅療養と病院を併用したい など

(上段：人 下段：%)

		合計	A	B	C	D	無回答
全体		1,847	752	481	513	51	50
		100.0%	40.7%	26.0%	27.8%	2.8%	2.7%
性別	男性	727	278	215	197	15	22
		100.0%	38.2%	29.6%	27.1%	2.1%	3.0%
性別	女性	1,107	470	264	310	36	27
		100.0%	42.5%	23.8%	28.0%	3.3%	2.4%
行政区別	中央区	448	195	101	129	12	11
		100.0%	43.5%	22.5%	28.8%	2.7%	2.5%
	東区	487	201	137	126	13	10
		100.0%	41.3%	28.1%	25.9%	2.7%	2.1%
	西区	239	90	52	77	10	10
		100.0%	37.7%	21.8%	32.2%	4.2%	4.2%
行政区別	南区	309	121	88	80	9	11
		100.0%	39.2%	28.5%	25.9%	2.9%	3.6%
行政区別	北区	354	142	102	96	7	7
		100.0%	40.1%	28.8%	27.1%	2.0%	2.0%
年齢区別	18~34歳	305	167	55	72	9	2
		100.0%	54.8%	18.0%	23.6%	3.0%	0.7%
	35~49歳	441	207	108	106	12	8
		100.0%	46.9%	24.5%	24.0%	2.7%	1.8%
	50~64歳	575	207	167	170	15	16
	100.0%	36.0%	29.0%	29.6%	2.6%	2.8%	
年齢区別	65~79歳	516	168	150	160	15	23
		100.0%	32.6%	29.1%	31.0%	2.9%	4.5%

ウ) 認知症が進行し、身の回りの手助けが必要で、かなり衰弱が進んできた場合

【全体合計の割合】



N=1847

【集計分析】

- B「介護施設（誰かに介助や介護をもらえる施設）」が59.2%と最も高く、次いでC「病院」が23.9%であった。
- 一方、A「自宅（在宅医療など）」と回答した方は11.7%であった。
- B「介護施設（誰かに介助や介護をもらえる施設）」とC「病院」を合わせると、8割以上が自宅以外で過ごしてほしいと回答している。

【その他 主な意見】

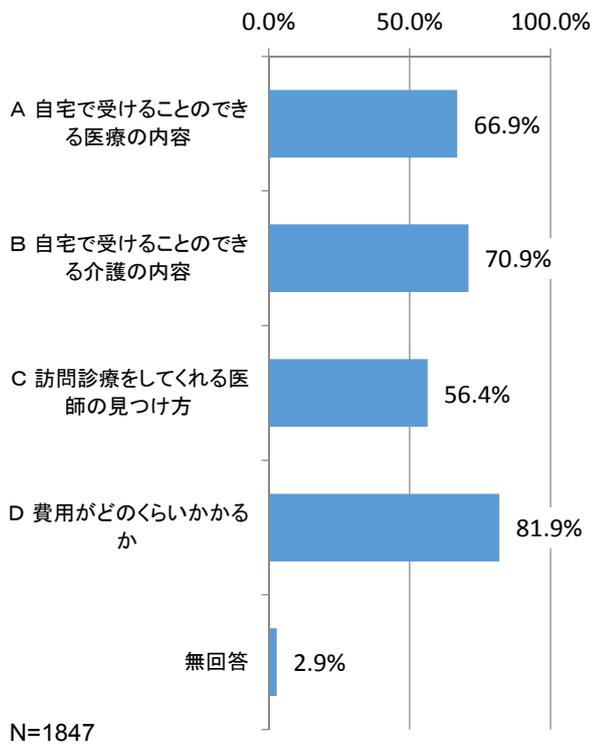
- その時の状況で判断したい
- 自宅と施設を併用して介護したい
- 本人が望む場所で介護したい など

(上段：人 下段：%)

		合計	A	B	C	D	無回答
全体		1,847	216	1,093	441	36	61
		100.0%	11.7%	59.2%	23.9%	1.9%	3.3%
性別	男性	727	97	431	165	12	22
		100.0%	13.3%	59.3%	22.7%	1.7%	3.0%
女性	1,107	116	657	273	24	37	
	100.0%	10.5%	59.3%	24.7%	2.2%	3.3%	
行政区別	中央区	448	50	260	115	10	13
		100.0%	11.2%	58.0%	25.7%	2.2%	2.9%
	東区	487	61	294	115	6	11
		100.0%	12.5%	60.4%	23.6%	1.2%	2.3%
	西区	239	29	143	52	3	12
		100.0%	12.1%	59.8%	21.8%	1.3%	5.0%
南区	309	31	192	64	9	13	
	100.0%	10.0%	62.1%	20.7%	2.9%	4.2%	
北区	354	43	200	93	8	10	
	100.0%	12.1%	56.5%	26.3%	2.3%	2.8%	
年齢区別	18~34歳	305	54	175	65	10	1
		100.0%	17.7%	57.4%	21.3%	3.3%	0.3%
	35~49歳	441	50	262	112	8	9
		100.0%	11.3%	59.4%	25.4%	1.8%	2.0%
	50~64歳	575	55	360	134	8	18
	100.0%	9.6%	62.6%	23.3%	1.4%	3.1%	
65~79歳	516	55	292	128	10	31	
	100.0%	10.7%	56.6%	24.8%	1.9%	6.0%	

問3 在宅医療・介護を利用する時のために、どのようなことについて知っておきたいですか。(いくつでも)

【全体合計の割合】



【集計分析】

- D「費用がどのくらいかかるか」が81.9%と最も高かった。
- 次いで B「自宅で受けることのできる介護の内容」が70.9%、A「自宅で受けることのできる医療の内容」が66.9%であった。
- 年齢区分別でみると、65～79歳ではD「費用がどのくらいかかるか」が70.5%であり、他の年齢区分より約12～20ポイント低かった。

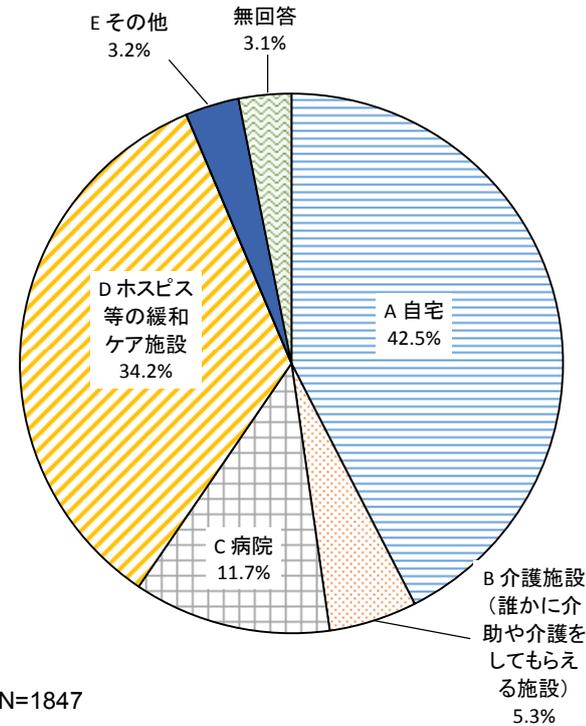
(上段：人 下段：%)

		合計	A	B	C	D	無回答
全体合計		1,847	1,236 66.9%	1,309 70.9%	1,041 56.4%	1,512 81.9%	54 2.9%
性別	男性	727	471 64.8%	501 68.9%	342 47.0%	557 76.6%	24 3.3%
	女性	1,107	758 68.5%	800 72.3%	690 62.3%	946 85.5%	29 2.6%
行政区別	中央区	448	313 69.9%	333 74.3%	241 53.8%	368 82.1%	13 2.9%
	東区	487	318 65.3%	350 71.9%	296 60.8%	408 83.8%	13 2.7%
	西区	239	152 63.6%	161 67.4%	134 56.1%	198 82.8%	9 3.8%
	南区	309	201 65.0%	215 69.6%	180 58.3%	242 78.3%	9 2.9%
	北区	354	248 70.1%	245 69.2%	184 52.0%	290 81.9%	9 2.5%
年齢区分別	18～34歳	305	222 72.8%	219 71.8%	165 54.1%	270 88.5%	3 1.0%
	35～49歳	441	309 70.1%	324 73.5%	260 59.0%	399 90.5%	8 1.8%
	50～64歳	575	380 66.1%	413 71.8%	337 58.6%	473 82.3%	15 2.6%
	65～79歳	516	321 62.2%	348 67.4%	273 52.9%	364 70.5%	27 5.2%

【人生の最期の場面（治る見込みがなく死期が迫った時）について】お尋ねします。

問4 あなたは、人生の最期の場面（以後の設問では「その時」という。）をどこで過ごしたいですか。（1つだけ）

【全体合計の割合】



【集計分析】

- A「自宅」が42.5%と最も高く、次いでD「ホスピス等の緩和ケア施設」が34.2%であった。
- 性別で見ると、A「自宅」との回答は、男性51.6%、女性36.4%であったのに対し、D「ホスピス等の緩和ケア施設」は男性23.7%、女性41.1%であった。
- 年齢が低いほど、A「自宅」と回答した人の割合が高くなっていった。

【その他 主な意見】

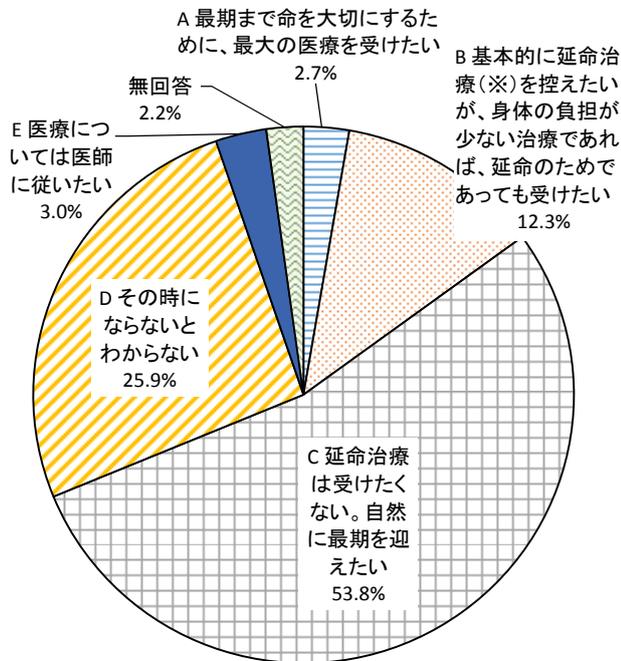
- どこでも良い。（家族と一緒にならどこでも良い）
- その時にならないとわからない
- 家族と一緒に過ごせるところ
- 自宅で過ごせる間は自宅で、難しくなったら状況に応じて施設か病院 など

（上段：人 下段：％）

		合計	A	B	C	D	E	無回答
全体		1,847	785	97	217	631	59	58
		100.0%	42.5%	5.3%	11.7%	34.2%	3.2%	3.1%
性別	男性	727	375	47	87	172	26	20
		100.0%	51.6%	6.5%	12.0%	23.7%	3.6%	2.8%
性別	女性	1,107	403	49	130	455	33	37
		100.0%	36.4%	4.4%	11.7%	41.1%	3.0%	3.3%
行政区別	中央区	448	179	18	53	166	19	13
		100.0%	40.0%	4.0%	11.8%	37.1%	4.2%	2.9%
	東区	487	204	27	60	166	17	13
		100.0%	41.9%	5.5%	12.3%	34.1%	3.5%	2.7%
	西区	239	91	13	27	93	5	10
		100.0%	38.1%	5.4%	11.3%	38.9%	2.1%	4.2%
行政区別	南区	309	140	11	33	104	10	11
		100.0%	45.3%	3.6%	10.7%	33.7%	3.2%	3.6%
行政区別	北区	354	166	27	44	99	8	10
		100.0%	46.9%	7.6%	12.4%	28.0%	2.3%	2.8%
年齢区分別	18～34歳	305	184	8	30	68	12	3
		100.0%	60.3%	2.6%	9.8%	22.3%	3.9%	1.0%
	35～49歳	441	205	15	34	156	19	12
		100.0%	46.5%	3.4%	7.7%	35.4%	4.3%	2.7%
年齢区分別	50～64歳	575	212	25	69	235	16	18
		100.0%	36.9%	4.3%	12.0%	40.9%	2.8%	3.1%
年齢区分別	65～79歳	516	179	48	84	169	12	24
		100.0%	34.7%	9.3%	16.3%	32.8%	2.3%	4.7%

問5 あなたは、「その時」どのような医療を受けたいですか。(1つだけ)

【全体合計の割合】



N=1847

【集計分析】

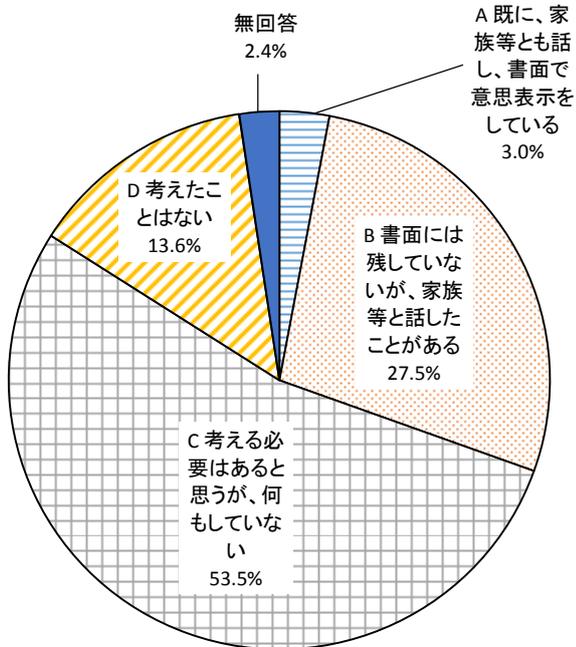
- C「延命治療は受けたくない。自然に最期を迎えたい」との回答が53.8%と最も高く、半数以上であった。
- 次いで、D「その時にならないとわからない」が25.9%、B「基本的に延命治療を控えたいが、身体の負担が少ない治療であれば、延命のためであっても受けたい」が12.3%であった。
- 一方、E「医療については医師に従いたい」が3.0%、A「最期まで命を大切にするために、最大の医療を受けたい」が2.7%であった。
- 年齢区分が高くなるにつれ、C「延命治療は受けたくない。自然に最期を迎えたい」の回答割合が高い傾向があった(18~39歳39.0%、65~79歳62.4%)。

(上段：人 下段：%)

		合計	A	B	C	D	E	無回答
全体		1,847	50	227	994	479	56	41
		100.0%	2.7%	12.3%	53.8%	25.9%	3.0%	2.2%
性別	男性	727	26	103	390	174	17	17
		100.0%	3.6%	14.2%	53.6%	23.9%	2.3%	2.3%
性別	女性	1,107	23	122	596	303	39	24
		100.0%	2.1%	11.0%	53.8%	27.4%	3.5%	2.2%
行政区別	中央区	448	12	62	244	111	11	8
		100.0%	2.7%	13.8%	54.5%	24.8%	2.5%	1.8%
	東区	487	12	62	259	135	9	10
		100.0%	2.5%	12.7%	53.2%	27.7%	1.8%	2.1%
	西区	239	10	27	120	66	8	8
		100.0%	4.2%	11.3%	50.2%	27.6%	3.3%	3.3%
行政区別	南区	309	5	26	171	89	14	4
		100.0%	1.6%	8.4%	55.3%	28.8%	4.5%	1.3%
行政区別	北区	354	10	49	194	76	14	11
		100.0%	2.8%	13.8%	54.8%	21.5%	4.0%	3.1%
年齢区分別	18~34歳	305	11	49	119	114	10	2
		100.0%	3.6%	16.1%	39.0%	37.4%	3.3%	0.7%
	35~49歳	441	13	70	211	132	9	6
		100.0%	2.9%	15.9%	47.8%	29.9%	2.0%	1.4%
年齢区分別	50~64歳	575	12	68	336	137	11	11
		100.0%	2.1%	11.8%	58.4%	23.8%	1.9%	1.9%
年齢区分別	65~79歳	516	13	39	322	94	26	22
		100.0%	2.5%	7.6%	62.4%	18.2%	5.0%	4.3%

問6 あなたは、「その時」に受たい医療について、日頃から考えていますか。(1つだけ)

【全体合計の割合】



【集計分析】

- 「考える必要はあると思うが、何もしていない」が53.5%と最も高かった。
- 一方、「書面には残していないが、家族等と話したことがある」が27.5%、「既に、家族等とも話し、書面で意思表示をしている」が3.0%であり、この2つを合わせると約3割の方が日頃から考え、家族等と話していた。

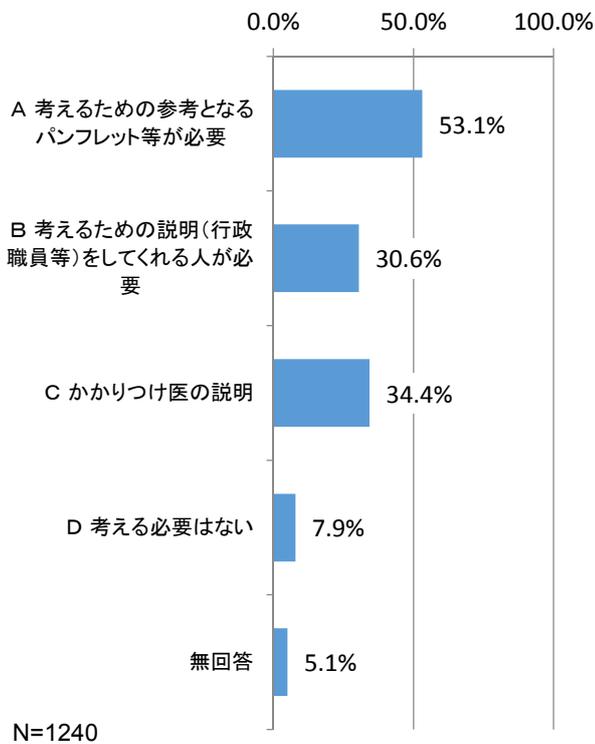
N=1847

(上段：人 下段：%)

		合計	A	B	C	D	無回答
全体		1,847	55	508	989	251	44
		100.0%	3.0%	27.5%	53.5%	13.6%	2.4%
性別	男性	727	16	184	391	115	21
		100.0%	2.2%	25.3%	53.8%	15.8%	2.9%
女性	1,107	38	322	588	136	23	
		100.0%	3.4%	29.1%	53.1%	12.3%	2.1%
行政区別	中央区	448	15	124	248	50	11
		100.0%	3.3%	27.7%	55.4%	11.2%	2.5%
	東区	487	11	136	265	68	7
		100.0%	2.3%	27.9%	54.4%	14.0%	1.4%
	西区	239	11	57	126	39	6
		100.0%	4.6%	23.8%	52.7%	16.3%	2.5%
南区	309	8	89	157	47	8	
		100.0%	2.6%	28.8%	50.8%	15.2%	2.6%
北区	354	9	100	186	47	12	
		100.0%	2.5%	28.2%	52.5%	13.3%	3.4%
年齢区分別	18~34歳	305	6	55	154	89	1
		100.0%	2.0%	18.0%	50.5%	29.2%	0.3%
	35~49歳	441	6	109	257	65	4
		100.0%	1.4%	24.7%	58.3%	14.7%	0.9%
	50~64歳	575	15	173	330	43	14
	100.0%	2.6%	30.1%	57.4%	7.5%	2.4%	
65~79歳	516	27	169	241	54	25	
		100.0%	5.2%	32.8%	46.7%	10.5%	4.8%

問7 問6で、CまたはDを選んだ人のみ回答ください。「その時」に受けたい医療について、考えるためには何が必要と思いますか。(いくつでも)

【全体合計の割合】



【集計分析】

- 「考えるための参考となるパンフレット等が必要」が53.1%で最も高かった。
- 次いで、「かかりつけ医の説明」が34.4%、「考えるための説明(行政職員等)をしてくれる人が必要」が30.6%であった。
- 7.9%の方は、「考える必要はない」との回答だった。

(上段：人 下段：%)

		合計	A	B	C	D	無回答
全体合計		1,240	659 53.1%	379 30.6%	426 34.4%	98 7.9%	63 5.1%
性別	男性	506	262 51.8%	153 30.2%	168 33.2%	45 8.9%	26 5.1%
	女性	724	395 54.6%	221 30.5%	253 34.9%	53 7.3%	35 4.8%
行政区別	中央区	298	165 55.4%	96 32.2%	104 34.9%	18 6.0%	11 3.7%
	東区	333	180 54.1%	96 28.8%	116 34.8%	24 7.2%	17 5.1%
	西区	165	90 54.5%	57 34.5%	55 33.3%	15 9.1%	9 5.5%
	南区	204	99 48.5%	60 29.4%	70 34.3%	21 10.3%	12 5.9%
	北区	233	123 52.8%	67 28.8%	77 33.0%	20 8.6%	13 5.6%
年齢区分別	18~34歳	243	131 53.9%	66 27.2%	77 31.7%	28 11.5%	6 2.5%
	35~49歳	322	187 58.1%	96 29.8%	116 36.0%	21 6.5%	11 3.4%
	50~64歳	373	220 59.0%	122 32.7%	120 32.2%	23 6.2%	17 4.6%
	65~79歳	295	119 40.3%	92 31.2%	109 36.9%	26 8.8%	28 9.5%